

《第 504 回(2023 年 7 月 13 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:11 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

## 『5 番レーン』 ウン ソホル/作, ノ インギョン/絵, すんみ/訳 鈴木出版

7月の読書会では、韓国文学の『5番レーン』を読みました。水泳部の小学生たちを描いた物語で、第69回青少年読書感想文全国コンクールの小学校高学年の部の課題図書にもなっています。主人公のカン・ナルは、小学6年生で水泳部のエース。ただ、最近、ライバルのキム・チョヒに試合で勝てずにいます。水泳では予選を1位で通過した選手が4番レーンを泳ぎ、2位で通過した選手が5番レーンを泳ぐため、本書のタイトルは『5番レーン』。ナルの今の状況を表しています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

\*\*\*\*\*

●カタカナの名前が覚えにくかった。すてきな恋愛物語だったが、ナルが水着を盗んだあとも懺悔がなく、そのままなのが気になった。課題図書になっているのはいいと思う。西洋だけでなく、東洋の文学を知るよい機会になる。

●小学校に本格的な水泳部があることに驚いた。挿し絵や字体もよく、きれいな本だと思った。

●小学校高学年向けの課題図書だが、中学生向けでもいいと思った。身近なテーマを描いているので、誰に感情移入するかによって、感想も違ってくる。登場人物の子どもたちがみんな一生懸命で、読後感がよかった。韓国文化のことなど解説が欲しかった。

●水泳中心の話かと思ったが、恋愛や友情があり、それぞれが成長していく物語。コーチ・お母さん・お姉さんの言葉で、ナルの気持ちが変わっていく。本の最初と最後で気持ちの違いがよくわかる。「自分の力で勝ちたい」と言うチョヒがかっこよかった。

●アマチュアの大会で優勝していても選手ではないところなど、日本と韓国の文化の違いを知った。ナルは水泳だけの生活をしている。まだ小学生。今後どう成長していくか、本人の意思が大事だと思う。ナルは、競泳を続けたいという思いを主張できてよかった。

●名前のことや、スポーツにおけるプロとアマチュアの違いなど、韓国文化の予備知識がないと読みづらい。失敗する、経験することで学べることもある。ナルとチョヒの成長が感じられた。

●主人公の小学6年生が大人びていた。スマホやチャットでの会話が中高生みたい。水泳に打ち込んでいるが悩みも多い。解説に書かれていたような「自分だけのときめきに気づき、何かに全力をそそいでみる経験」があることがいいなと思った。

●感情移入ができず、読み進めるのに時間がかかった。韓国の友人に聞くと、学校にプールはなく、水泳の授業もしないとのこと。韓国は、中学・高校には部活は少なく、勉強勉強となってしまふ。主人公たちはエリートの子もたち。小学校から将来が決まってしまう。

●登場人物がいい人ばかり。水泳部のメンバーも、ナルが自分のしたことを告白した後も、軽蔑せずに自分の恥ずかしい秘密を打ち明けてくれる本当の仲間。お隣の国なのに韓国のことを知らない。カラーの挿し絵はよかったが、子どもの顔が幼いと感じた。

●ライバルの水着を盗んでしまったことへの葛藤と、転校生テヤンとの恋をうまくまとめている。カラーの挿し絵が物語を支えているので、子どもたちも読んで共感できると思う。韓国だけでなく、世界の子もたちの今を知る本を読んでいきたい。

●ナルのお姉ちゃんが言う、水泳をやめても世界は終わらない、自分の力で進んだら落ちたことにはならないという言葉が重かった。最後の「結果ではなく、大事なのは過程。自分で結果を作る」というナルの思いが子どもたちに伝わるといい。

次回 9月14日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『いのちの木のあるところ』新藤 悦子/作, 佐竹 美保/絵 福音館書店

※申込み・参加費は不要です。